

おー!! 柏陽



北海道北見柏陽高等学校同窓会「かしわ会東京支部」2022年度会報
発行日 2022年7月31日
発行者 北海道北見柏陽高等学校同窓会 東京支部
著作 敏明 神奈川 横浜市麻生区岡上6-7-14

二〇二二年度東京支部総会・

懇親会の開催に当たって

かしわ会東京支部支部長 著作敏明

新型コロナウイルスの流行で、私たちは経験したことがない行動制限を強いられ、人との交流が大きく変わった2年間でした。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

現在、新型コロナウイルスの接種が進み新規感染者数が減少し経済活動が徐々に回復傾向にあります。新たな変異ウイルス拡大の懸念もあり、まだまだ予断を許さない状況が続いています。

この様な状況下、母校での青春を「同じ空間」で「同じ空気を吸って」過ごした同志として、当時の学舎とは違いますが一堂に会することの重要性は、このコロナ下において益々重要なことと考え、現在3年ぶりの「総会・懇親会」開催に向け役員一同準備を進めているところです。

今年「かしわ会東京支部」創立30周年の記念すべき年となりました。新型コロナウイルス感染症対策をしっかり図り、諸先輩方の設立当時のお話を伺いながら久々の再会に花を咲かせたいと念願しております。

共に楽しい時間と絆をさらに深められるよう皆さまのご参加をお待ちしております。

二〇二二年度役員紹介

昨年度総会にて紹介できませんでした。引き続き会報にて失礼します。



●支部長 著作敏明(20期)



副支部長 千田 潤(20期)



副支部長 小竹利和(20期)



副支部長 古賀恵美子(21期)



●幹事長 岡崎 誠(22期)



副幹事長 塩 康(27期)



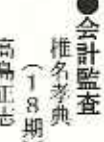
副幹事長 最 謙一(27期)



副幹事長 青野一彦(28期)



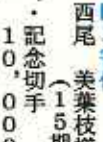
●会計監査 浦 岐 雄(24期)



●会計監査 椎名孝典(18期)



●会計監査 高島正志(18期)



●会計監査 西尾 美葉枝様(15期)

二〇二二年度活動報告

および承認事項

活動報告

・会報発行

■会計報告(二〇二二年度)

・前期繰越金

29万5734円

・収入計

0円

・支出計

8万9400円

・次期繰越金

20万6334円

●寄付
西尾 美葉枝様
(15期)
記念切手
10,000円

2022年度 東京支部総会の開催に寄せて

かしわ会東京支部総会に寄せて

北海道北見柏陽高等学校 同窓会

かしわ会会長 舩川 誠

東京支部の皆さんお変わりありませんか。今年は春先から国内外で、ごく当たり前の日常が奪われる悲劇的な出来事や事故が起こっており、起こればもう人間であれば、それを防ぎ終わらせるのも人間、そんなことを考えさせられました。この2年、私たちの大切な時間を翻弄したコロナウイルスも、少し落ち着いてきたと感じているのは「慣れ」の所為でしょうか。

まだまだ安心は出来ませんが、愈々来年は母校の創立100周年です。勢いを付けるためにも、本年9月2日に北見にて3年ぶりに「総会・懇親会」を開催します。また、東京支部の総会には、副会長全員と幹事長・事務局を伴い大勢で出席する計画でありますので、その節はどうぞよろしくお願い致します。



右の写真2枚はどうでしょうか。北見が全国に誇る七輪での炭火焼肉とオホーツクビールです。来年の10月7日(土)紅葉も映える食欲の秋に、創立100周年記念式典(北見市民会館)と祝賀会(ホテル黒部)を開催致します。前回90周年の際に奉寿を迎えられ北見での記念式典に合わせ同期会を開催された先輩達(3期生)の道中記を改めて読ませていただきました。味わい深い文章からも存分に楽しまれた光景が目に見え、とうとう、楽しい思い出の時間となりますことを願います。会長としてのご挨拶とさせていただきます。

かしわ会東京支部の皆さんへ

札幌かしわ会会長 中村 敬臣

かしわ会東京支部の皆さん、お元気で過ごしているのと思います。

我が母校、北見柏陽高校は一九二三年(大正十一年)に野付牛女学校として創立されて以来、本年で九九歳を迎えました。来年は記念すべき「百寿」です。

柏魂陽心、文武両道を唱える逞しくも明るく自由な校風は、どの学校にも負けません。

私もその校風に憧れ、伸び伸びと学校生活を送らせてもらいましたので、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。札幌に仕居を構えながらも、ときどき母校を訪問させていたいております。



私は水泳部所属でしたが、野球部のファンでもありました。私が3年生のときには甲子園に初出場!それ以来、半世紀が経過しましたが、今年は19人もの新1年生が入部し、俄然活気が出てきたとのこと。

体格のよい選手が多いので、来年、再来年がともにも「聖地」に応援に駆け付けることができればと願いつつ、仕事に遊びに精を出したいと考えている今日この頃です。

「かしわ会東京支部の皆様へ」
(創立百周年にむけて)

北海道北見柏陽高等学校長 青木祐治

かしわ会東京支部の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より母校の教育活動への物心にわたる御支援をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中ですが、対策を講じながら日々教育活動を進めています。



去る3月1日は参加者を限定してではありますが、第72期生199名の卒業を祝うことができました。また、4月8日の入学式では、外川誠同窓会長様の御臨席を賜り、75期生となる200名の新入生を迎え、生徒586名、教職員50名で新年度をスタートしたところであります。生徒たちは学習に、部活動にと何事にも積極的に取り組んでいます。伝統の柏陽祭も以前のよう形で開催できないか生徒会を中心に模索してくれるなど、主体的に取り組む本校生徒の良い風が伺えます。



いよいよ、来年は本学創立百周年を迎えます。かしわ会の皆様と共に記念の年に向け、学校を挙げて準備に取り組んで参ります。感染症の影響がまだまだ心配される日々ですが、かしわ会東京支部の益々の御発展と皆様の御健勝をお祈り申し上げますと共に、本校への変わらぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

トピック

活動報告

野球部顧問 鈴木 快

野球部は現在3年生9名、2年生8名、1年生19名の計36名で活動しています。

昨年の夏の大会では9年ぶりに北北海道大会に出場し、1回戦旭川工業高校と対戦しました。前半5回までは、旭川工業の左腕に0対3とノーヒットに封じ込まれ苦戦していましたが、中盤6、7回と6点を取り返し逆転しました。しかし、終盤8回2点を追加され、9回裏にサヨナラ負けを喫しました。勝利まであと一步というところで勝ちきれず、悔しい敗戦となりました。

新チームでは力ある3年生が抜け、1からのスタートとなりました。秋の大会、1回戦の遠征戦では0対11の大敗を喫し、実力のなさを痛感しました。この悔しい気持ちを忘れず、冬の厳しい練習を乗り越え、さらに新戦力である1年生を19名加え、今シーズン最大の大会に挑みます。伝統ある北見柏陽高校のプライドを胸に2年連続の北北海道大会出場と平成20(2008)年以来14年ぶりの勝利を目指します。今後とも同窓会の皆様のご支援、ご声援をよろしくお願い致します。



野球部の皆さん

北見柏陽高等学校 校歌

作詞 久松 義
作曲 岡崎 謙二

- 一、北海の空 高くかがやき
常呂河波 さやかに清し
その流れをす 情ほがらに
知恵にふみこ 真理めざして
いざすすまんかな 行手はほろけし
- 二、六十の年 われらがみおや
風雪に堪え ここを閑きし
その雄心もて 身をば鍛えつ
事にあたえぬ 意志をみがき
いざすすまんかな 行手はほろけし
- 三、山の幸ゆたに 野のすみちて
北見の土地は はてなく広し
ここにこそわ われら若人
おほにゆたけき 和の心もて
いざすすまんかな 行手はほろけし

第三応援歌

- 一、真赤赤な太陽が 地球をこがし
おー柏陽 おー柏陽
その灼熱で 鍛えた身体だ
- 二、真赤赤な血潮が 五体に巡えて
おー柏陽 おー柏陽
その情熱で 鍛えた意気だ
- 三、オホツツの巻流は 鯨を吞んで
おー柏陽 おー柏陽
運巻く波に 流した汗だ
- 四、活火山の阿寒岳 大地をゆすつて
おー柏陽 おー柏陽
その地震さに エールを唄う



現在の正門風景



50年前の正門校舎風景



創立当時の正門校舎風景

メンバー紹介

「深層生活」

二〇〇期 村本健二

70歳は、思っていた以上に節目の年齢だ。あるエッセーに、「人生を豊かにするには、精神文化の活動に関わる『深層生活』を意識するとよい」と書いてあった。私の人生は、レスリングを通して「深層生活」に触れているようだ。

1964年東京オリンピックを、白黒テレビでレスリングを初めて観る。高校入学式の祝辞は、北海道レスリングの創始者である北村人三校長の「ねばり、ふんばり、がんばり」。一年生担任の山本晃弘先生から、レスリング同好会に勧誘され、大体育館の舞台で初めてのブリッチ。ホンダN360で行った遠軽高校の合宿で、東京オリンピック金メダリスト花原勉先生の「一本背負い」に魂が震えた。翌年日本体育大学に入学、理不尽なことも多々あったが、いやというほどレスリンをする。



4年生で東ドイツの国際大会に出場し、「ヨーロッパの香り」が好きになった。その後は、国際審判員でいろんな国で笛を吹き、アテネ五輪では、女子レスリングの金メダルに酔いしれた。この歳になってもレスリングに戯れ、筋肉がつくことに驚いている。もう一つ、アスリートの端くれだが、イチローの研究もしている。



会員メンバー便り

東京での小さな集まりを紹介します

21期 寺井浩一

私は5月に寺井浩一展《2011-2022 表現の開拓》という個展を東京日本橋の好文画廊で行いました。そして、この会期中の5月7日(土)の夕方より同期生の古賀恵美子さん、木幡 徹君の二人がメンバーになっているフォークソンググループ Breezin' が懐かしいピーター・ポール&マリー(PPM)の歌を披露してくれました。



Breezin' の皆さん



寺井さん：真ん中の方

この催しは2018年以来で、東京周辺在住の同期生に呼びかけ、この日10名程集まりました。コロナ禍でなかなか集まる機会が無かったため久しぶりの再会でしたが、皆元気な様子で会話も弾み、旧交を温めました。

当初は近くの店を借りて同期会という形で会食を考えていましたが、感染状況を考えた結果断念した次第です。

ライブでは現在世界を震撼させているロシアのウクライナ侵攻を憂い、PPMの平和を願う歌を披露していただき、会場に集まった30名程の方から大きな拍手がありました。

また、このライブでは「ウクライナに平和を」という募金をお願いしたところ、18,357円のお金が集まりました。このお金はBreezin'の方々の意向で、全額ユニセフの「ウクライナ緊急募金」へ寄付致しました。



寺井浩一展(於：好文画廊)



私たち21期生は今年古希を迎えます。そのため、年々会うたびに健康の話題が多くなって来ていますが、「じゃあ、また会おう!」という元気な声がこれからも長く続くことを心から願っています。

【編集者からの情報です】

寺井さんは東京藝術大学をご卒業され定期的に個展を開催しています。

高校時代の思い出

31期 四十物恭之

早いもので私も今年還暦を迎えることとなりました。昔であれば60歳で定年ですが、現状は残念ながらまだまだ働かなくてはならないようです。

現在私は、埼玉県で介護・医療機関を経営。協会の理事等としており、忙しい毎日を過ごしております。私は大学卒業後、明治安田生命保険に就職。その後KDDIへ転職し5年後に独立し現在に至ります。高校卒業は12年前、まさに「光陰矢の如し」であります。高校時代は後悔と失敗しかありませんが、少し振り返ってみます。

父が北見信金勤務のため、津別-置戸-北見-留辺蘂-北見-釧路-北見と転校ばかりしておりました。



小学生



中学生



高校生

中学3年に北見北中に転校し柏陽高校へ入学しました。入学時に詰襟学生服に北見柏陽高校の校章を付けたときの感激を今でも覚えております。期待に胸膨らませ入学しましたが根っからの怠け者なので、すぐに怠惰な生活を送ってしまいました。部活は放送局に入りました。放送局では運動部と同じく地区大会がありその後全道大会に進みます。知恵を絞ってラジオ番組の制作など、地区大会では無敵になり全道大会常連校になりました。なにより札幌に(遊びに)行ける事だけが嬉しかったのです。放送局では運動部大会等の場内アナウンスをする事もあります。高校2年のときは高校野球地区大会担当校となり、授業を公欠扱いで1ヶ月あまり休みました。その後、教職員弓道大会、卓球地区大会と当番校が続き、放送全道大会も重なり出席日数未達で職員会議に掛けられましたが、(何故か)無事進級することが出来ました。いまではダメでしょうね。公欠を良い事に勉強は……。やはり、勉強はしておけば良かったと後悔しております。先生方すみませんでした。

先日、TBSとの打ち合わせの際に高校の話になり、「北海道の柏陽高校です」というと「うちの安住の先輩ですか!」と安住アナウンサーの帯広柏葉高校と間違われてしまいました。よく間違われます。(お土産に当時話題の「TBS 半沢直樹の100倍返し饅頭」を頂きました)有名な人が出ると出身高校も有名になり正直少しだけ嬉しいものです。

・後輩諸君頑張ってください!

末筆ではありますが、掲載される頃はまだコロナ禍でしょうか。皆様におかれましては、くれぐれもご自愛なさいますようお願い申し上げます。



現在の四十物さん

【編集後記】

皆さま「おー!柏陽2022」をお届けします。今回表紙を飾って頂いたのは「野球部」の皆さんです。今まで「コロナ禍」の中で、各部対外試合、対外交流など制約を受けながらの活動を強いられてきたと思いますが、徐々に3年前の景色に戻りつつあります。これからは全力投入で頑張ってくださいと思います。お忙しい中、原稿をお寄せくださいました方々、ありがとうございました。今年は「総会・総報会」の開催ができ皆様にお会いできようことを役員一同祈願しております。

横濱 記

かしわ会東京支部 30 周年に寄せて(1/2)

かしわ会東京支部三〇周年に当たって
かしわ会東京支部支部長 著作敬明

平成一一年八月三〇日発行のかしわ会会報に、君野幹事長の「東京支部だより」として以下の文章が載っています。

「私共、かしわ会東京支部は平成五年の一〇月に学校創立七〇周年を記念し、当時の内海彰校長先生、小畑康晴同窓会長、岩淵文市かしわ会顧問の要請を受けて設立致しました。以来、早六年、設立総会を含めて七回の総会・懇親会を開催し、在京同窓生と和氣満々のうちに、懇親の和を深めてまいりました。本年も来る一月二〇日(土)一六時より東京芸術劇場正面の東方会館四階ホールにて開催いたします。北海道在住の同窓の方々も如何ですか。お待ちしております。」

創立三〇周年を迎えるに当たり、歴代支部長、幹事長をはじめとする役員の方々、及び会員の方々のご尽力に改めて感謝申し上げます。コロナで一年損をしたので、その分長く生きることになった」と言われた大先輩 泉宏吉様(三期生)が今年一月に急逝されました。「次回の総会・懇親会を楽しみにしているよ」とのお言葉が最後になりました。心からご冥福をお祈りいたします。

今年、かしわ会東京支部創立三〇周年、令和五年には学校創立一〇〇周年という大きなイベントを迎えます。私たち北見柏陽高校という共通の学び舎を卒業した仲間として絆をさらに深める機会になることを念願しております。

かしわ会三〇周年を迎えるにあたって

星野 明(七期生)

東京に支部(かしわ会)をと本部から依頼があり、新制高校卒一期生の君野(故人)幹事長を中心に、打合せを何回か繰り返して、各期の幹事選定を行いました。これが難航したのですが、取り合えず二期生迄の皆さんに案内を出す事となり、第一回開催を池袋西口にあった「東方会館」で声を上げる事となりました。最初は懐かしさもあつて200名以上の出席者で大いに盛り上がり、その後の一〇年が経過し、そろそろ後輩に引き継ぐこととなり、第二期支部会(四年)を幹事長八期生藤澤、支部長七期生星野で引き継ぎを行いました。

引き受けて最初に規約の中の「総会」を削除し懇親会のみとしました。また会場を新宿西口「センチュリーハイアット」に移動し、以後固定させて頂きました。また現在も活用している「かしわ会東京支部懇親会」も年度を入れず毎年利用できるよう以降の経費を削減するように考えました。一方で、会場変更に伴い参加費用は増となりましたが、150名以上の出席を頂きました。会員の皆さんにはご協力頂き有難うございました。今後元気があれば若役員さんに協力し参加させて頂きます。早くコロナ禍が終息し、安心して開催されるよう願っております。



受け継がれる横断幕

森林セラピーに携わって一三年

四十物 治夫(一五期生)

森林セラピーとは「科学的根拠に裏付けされた森林浴効果のこと。森林環境を使って心身の健康維持・増進、疾病予防を目指す」と言われています。言い換えると、日常のストレスから逃れて森林環境に身を置き、心身のリラクゼーション・リフレッシュを目標にしています。森林セラピスト・ガイドは、それを実現するためのサポーター役です。

自然の力を利用して、お客様が「癒やされた」と感じられるように、お客様の心身の状態やニーズを把握した上でその方に適したプログラムを立案・現地案内します。

「日が大きくなる頃角が上がり穏やかに、頬に赤みが差す」など表情変化がみられたら、森林セラピー効果が得られた証です。また、森林内で寝落ちしてしまう人も多いです。

退職後山梨市に移住した翌年から、西沢溪谷森林セラピー基地を中心に活動していますが、県外も含めると、昨年までに900人を超えるお客様を案内しました。



未病の人が対象で、皆さんの森林セラピーに期待すること。は「ストレスから解放されたい」「無になりたい」等が多いですね! 客層は一部三県からが最も多く、七割女性、七割強を占め、年代別では四〇〜五〇歳代が約五割です。

自分自身の心身の健康維持にも欠かせないので、可能な限り森林セラピーに関わりたいのですが、後期高齢者の仲間入りをしたので、そろそろ引き時かな?と・・・



かしわ会東京支部 30 周年に寄せて(2/2)

『かしわ会東京支部』設立30周年

誠にありがとうございます

藤澤義隆(二期生)

この節日に当り自分を振り返りますと卒業後六〇年、人間の齢で云いますと還暦を迎える日時が経ちました。二期生の私は昭和三六年三月に柏陽高校を卒業し北見をあとにしました。当時は飛行機での上京など考えられず24時間掛けて上野に着いたものです。

卒業後30年を経て生活も落ちついた頃、在京の兄(八期生)より「かしわ会東京支部」の存在を知り、顔を出しました。そこには大先輩の方々、初代会長の長谷川さんを始め泉さん高木さん等々、柔和なお顔で迎えてくださいました。

このかしわ会のお蔭で、関東地区で活躍している同期生、先輩そして後輩を知る事が出来ました。

かしわ会東京支部はコロナ禍で二年間、開催出来ておりませんが、この会には在京の同期生の出席者は少ないものの、必ず北見から中山大三郎さんが参加し北見の様子、仲間の動向を聞く事が出来、旧交を深めて居ります。

「かしわ会」出席の後には三々五々二次会へ、気持ちの高揚を抑え切れず大勢で仲間とワイワイガヤガヤ。我々も年齢を経て耳も遠くなり周りのお客様から「静かにして下さい」とお叱りを受ける有様、それでも「俺たち声が大いにか？」と大きな声、誰も聞こえない。そして周りの人が振り向く有様。実に愉快な時を昔に帰って取り戻すことが出来ます。



それにしても『かしわ会』(東京地区在住卒業生)の方々、特に女性群の活躍は素晴らしく身近な人では、井戸理恵子さんは『東京北見会』会長を務め、同期ではマリンバ奏者の北原千鳥さん等々が居られます。

北見の地、柏陽高校を占里とし遠い地で努力している姿に頭が下がります。

校歌に「六十年(むそとせ)」の前我等が御親がここを拓きて・・・とあります。北見市が開拓されて(一八九五年)一三〇年有余年。二期生は卒業してから丁度六〇年になります。先輩者とは異なり馬齢を重ねてきた六〇年(むそとせ)ですが、お世話になった柏陽高校の先生方、そして楽しい時を過ごした同期、同窓の方々に想いを馳せ「かしわ会東京支部」会員として少しでも後輩の皆様のお役に立ちたいと思つて居ります。

東京支部30周年を記念して

かしわ会会長 外川 誠(二期生)

かしわ会東京支部が記念すべき三〇周年を迎えられましたこと、同窓生を代表致しまして心よりお慶び申し上げます。そして、遠く故郷を離れ、ご自身の努力と力で地位を築かれ、ご活躍されておられますことに敬意を表し、さらに母校北見柏陽高校に対し、三〇年の長きに亘り思いを寄せていただきましたことに、唯々感謝の思いであります。その皆様にとつて故郷は、やはり大切な心の拠り所のひとつであるのだと思ひます。私は皆様が「いつまでも変わらぬ」と願われているその故郷北見で三年前から北見商工会議所の会頭を仰せつかっております。その会議所が地権者の立場で参画している「北見市中央大通沿道地区第一種市街地再開発事業」が、来

年度着工に向け、都市計画決定を審議会が承認し動き出しました。



【イメージ図：手前駐車場が旧拓銀店舗跡】



【手前：旧拓銀店舗奥：経済センター】

全てのものを昔のままフルスペックで残すことはもはや望めません。少子化と人口流出が止まらない地方では夢物語です。これからは、形を変えることで残せるものに新しい機能を付け加えて「人の流れ」を作り、それをいかに賑わいに繋げるかの視点が大切になってくると思っております。何よりも子や孫の世代にこの北見を繋ぐために・・・見守っていただいている皆様から「おお!北見もなかなか頑張っているな」と言っていただけのようなまちづくりに邁進する覚悟であります。

それぞれの拠点で互いに切磋琢磨する、そのことが故郷の元氣も支え、東京支部の皆様のご活躍と支部活動のご盛会にも繋がりますようご祈念申し上げます。お祝いの言葉と致します。

歴代かしわ会東京支部支部長、幹事長

(敬称略) *故人

支部長

初代 長谷川俊郎(二期) *

二代 星野明(七期) *

三代 高橋英雄(二期) *

四代 幸崎勝利(二期) *

五代 高橋洋司(二期) *

六代 四十物治夫(二期) *

七代 椎名孝典(二期) *

八代 若作敏明(二期) *

幹事長

初代 長谷川俊郎(二期) *

二代 星野明(七期) *

三代 高橋英雄(二期) *

四代 幸崎勝利(二期) *

五代 高橋洋司(二期) *

六代 四十物治夫(二期) *

七代 椎名孝典(二期) *

八代 若作敏明(二期) *